



新しい土木計画学を考えるシンポジウム 2008/6/8

土木計画学における市民参加研究の意義

東京理科大学 理工学部 土木工学科
寺部慎太郎



社会基盤整備における市民参加・PI

- 社会基盤に関わる計画や政策の立案・実施・運営に市民が関わること.
- 市民と計画主体の間のコミュニケーション.





市民参加・PIを行う意義

- (1) 計画主体が市民の情報を収集できること
- (2) 市民が計画主体の考え方を理解できるようになること
- (3) 紛争をよりスムーズに解決できること
- (4) 紛争を未然に防ぐこと
- (5) 計画を改善できる可能性があること
- (6) 現在の間接民主主義システムの限界を緩和できること
- (7) 生涯学習の一環として機能しうること

出典：加藤浩徳・寺部慎太郎(2000)「交通と市民のかかわり合い」, 家田仁編東京大学工学部交通ラボ著『それは足からはじまった モビリティの科学』, pp.357-366, 技報堂出版



土木計画学における市民参加・PIの研究内容

1. PIに関わる制度設計に寄与する研究

- よりよいコミュニケーションができる制度や政策とは、どのようなものか？(what)
- ガイドラインの弊害, 中立性の担保, プロセス設計など

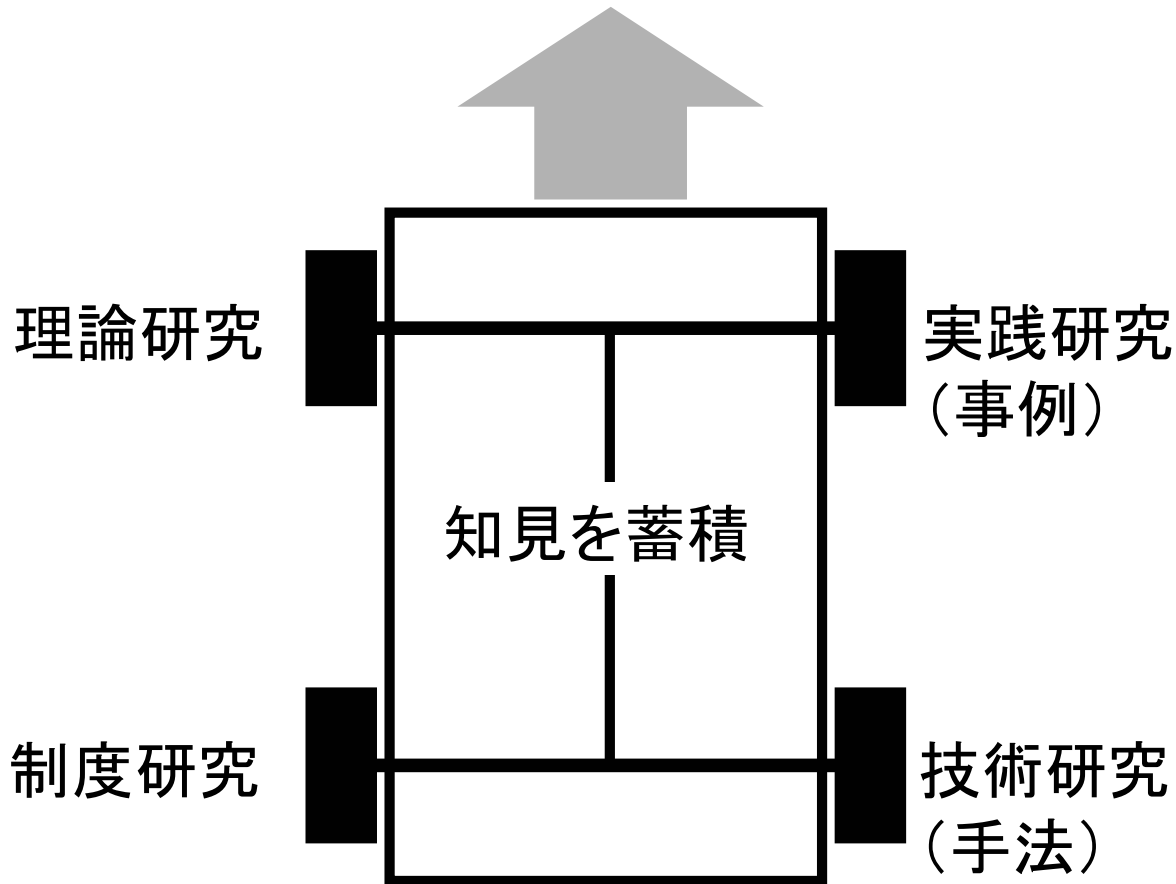
2. 市民参加・PIを行う上での技術・手法を開発・改良・考察する研究

- よりよいコミュニケーションは、どのように行ったらよいのか？(how)
- 協議会と懇談会, 説明方法, 意識調査方法など



土木計画学研究の「四輪駆動」論 (特に市民参加・PIの研究について)

解決策を見いだせる





土木計画学のあり方

- 社会基盤に関わる計画や政策が、**より良くなるよう**変えていくために活動すべき.

“土木計画学: **The Planning for Better**”

“土木学会: **The Engineering for Better**”

- だれにとっての「**良い**」か？
 - 市民, 国民, 住民, 利用者, 納税者など



土木計画学のあり方(続)

- 「北風と太陽」なら「太陽」

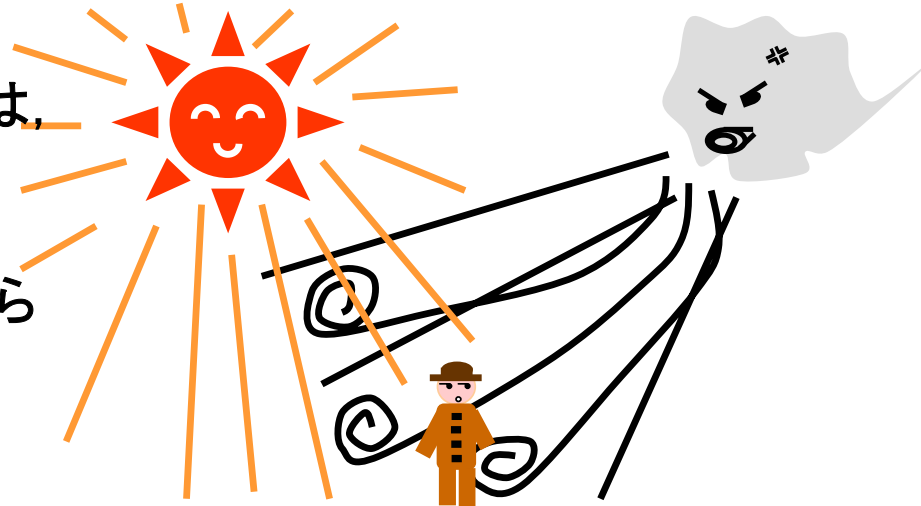
旅人＝計画や政策

北風＝評論・外圧・マスコミ

太陽＝土木計画学：変えられる術を知っている

中から変えていく あるいは、
近いところから変えていく。

ただし癒着，なれ合いと見られ
ないよう注意が必要。





委員長所信に対して

1. 研究者の活動が，学会関係の諸業務で飽和してしまっているのでは？
 - － 偏在しない程度に負担すべき.
 - － この学会で活動していく上での義務.

2. 学会諸活動の遂行にあたり，より自律分散型の学会を目指すのがよいのでは？
 - － 春大会の企画セッションがその初期の姿.
 - － 学会論文集再編で分散傾向は強まる.